

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	常滑市新学校給食共同調理場	階数	地上2階
建設地	愛知県常滑市珂屋字加茂151番2, 3	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	100人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,000時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年9月 予定	評価の実施日	2023年4月7日
敷地面積	11,170 m ²	作成者	川崎啓介
建築面積	3,179 m ²	確認日	2023年4月7日
延床面積	4,628 m ²	確認者	奥井康史



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100%
②建築物の取組み: 72%
③上記+②以外の: 72%
④上記+: 72%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

音環境: N.A., 温熱環境: N.A., 光・視環境: N.A., 空気質環境: N.A.

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

機能性: N.A., 耐用性: 3.0, 対応性: 3.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.2

生物環境: 1.0, まちなみ: 3.0, 地域性: 2.5

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

建物外皮の: 5.0, 自然エネ: 3.0, 設備システ: 5.0, 効率的: 3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

水資源: 3.4, 非再生材料の使用削減: 3.1, 汚染物質回避: 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

地球温暖化への配慮: 4.1, 地域環境への配慮: 2.5, 周辺環境への配慮: 2.8

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>4.1</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積): 12.8 % 建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積): 0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>4.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料> 常滑産焼物タイルを外装材に採用</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> 常滑産焼物タイルを内装材に採用</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
常滑市新学校給食共同調理場

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分			住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み係数	評価点		評価点
Q 建築物の環境品質										2.6
Q1 室内環境										-
1 音環境										-
1.1 室内騒音レベル										3.0
1.2 遮音										-
1 開口部遮音性能										-
2 界壁遮音性能										-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										3.0
1.3 吸音										-
2 温熱環境										-
2.1 室温制御										-
1 室温										3.0
2 外皮性能										3.0
3 ゾーン別制御性										3.0
2.2 湿度制御										3.0
2.3 空調方式										3.0
3 光・視環境										-
3.1 昼光利用										-
1 昼光率										3.0
2 方位別開口										3.0
3 昼光利用設備										3.0
3.2 グレア対策										-
1 昼光制御										5.0
3.3 照度										3.0
3.4 照明制御										3.0
各室の平均照度を算出しました。										-
4 空気質環境										-
4.1 発生源対策										-
1 化学汚染物質										3.0
4.2 換気										-
1 換気量										3.0
2 自然換気性能										3.0
3 取り入れ外気への配慮										3.0
4.3 運用管理										-
1 CO ₂ の監視										3.0
2 喫煙の制御										3.0
敷地内禁煙とします。										-
Q2 サービス性能										0.43
1 機能性										-
1.1 機能性・使いやすさ										-
1 広さ・収納性										3.0
2 高度情報通信設備対応										3.0
3 バリアフリー計画										3.0
1.2 心理性・快適性										-
1 広さ感・景観 (天井高)										3.0
2 リフレッシュスペース										3.0
3 内装計画										3.0
1.3 維持管理										-
1 維持管理に配慮した設計										3.0
2 維持管理用機能の確保										-
天井高さは2.7mを確保します。 リフレッシュスペースとして休憩室・食堂を設けます。										-
2 耐用性・信頼性										0.52
2.1 耐震・免震・制震・制振										0.4
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										3.0
2 免震・制震・制振性能										3.0
2.2 部品・部材の耐用年数										0.3
1 躯体材料の耐用年数										3.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										3.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										3.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										3.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										4.0
6 主要設備機器の更新必要間隔										3.0
給水管と給湯管をステンレス管としています										0.15
2.4 信頼性										0.1
1 空調・換気設備										3.0
2 給排水・衛生設備										3.0
3 電気設備										3.0
4 機械・配管支持方法										3.0
5 通信・情報設備										3.0
熱源の分散化・バックアップと吊配管としています。										0.20

3 対応性・更新性			0.4	3.3	0.48	-	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり			0.3	4.2	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり				5.0	0.60		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ			3.0	3.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38		-	-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.17		-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17		-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22		-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57		-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			独自③		1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30		-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性									3.6
LR1 エネルギー					0.40				4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.69		3.0	5.0	0.20	5.0
2 自然エネルギー利用						3.0	3.0	0.10	3.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.4		3.0	5.0	0.50	5.0
4 効率的運用					0.2	3.0	0.20		3.0
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00		
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50		
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50		
集合住宅の評価									
4.1 モニタリング						3.0			
4.2 運用管理体制						3.0			
LR2 資源・マテリアル					0.30				3.1
1 水資源保護					0.1	3.4	0.15		3.4
1.1 節水					3.0	4.0	0.40		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60		
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67		
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33		
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.1	0.63		3.1
2.1 材料使用量の削減						2.0	0.07		
2.2 既存建築躯体等の継続使用						3.0	0.25		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-		3.0	0.21		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	-		3.0	0.21		
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自		3.0	4.0	0.25		
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.0	0.22		3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32		
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.0	0.68		
1 消火剤						-	-		
2 発泡剤(断熱材等)						3.0	0.50		
3 冷媒					3.0	3.0	0.50		
LR3 敷地外環境					0.30				3.1
1 地球温暖化への配慮			①			4.1	0.33		4.1
2 地域環境への配慮					0.3	2.5	0.33		2.5
2.1 大気汚染防止						3.0	0.25		
2.2 温熱環境悪化の改善						2.0	0.50		
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.2	0.25		
1 雨水排水負荷低減			独自			3.0	0.25		
2 汚水処理負荷抑制						3.0	0.25		
3 交通負荷抑制			独自			4.0	0.25		
4 廃棄物処理負荷抑制						3.0	0.25		
3 周辺環境への配慮					0.3	2.8	0.33		2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40		
1 騒音			独自			3.0	1.00		
2 振動			独自			-	-		
3 悪臭						-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40		
1 風害の抑制						3.0	0.70		
2 砂塵の抑制						3.0	-		
3 日照障害の抑制						3.0	0.30		
3.3 光害の抑制					0.2	2.3	0.20		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						2.0	0.70		
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策						3.0	0.30		

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

常滑市新学校給食共同調理場

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.1	0.10	
② 資源の有効活用				3.1
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:12.8%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	4.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	2.0	-	常滑産焼物タイルを外壁材に採用
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	-	常滑産焼物タイルを内装材に採用

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 常滑市新学校給食共同調理場

計画上の配慮事項	
総合	食の安全・安心を実現する施設として、HACCPに準拠した計画とします。合わせて環境への配慮、省エネに取り組んだ計画とします。
Q1 室内環境	清潔感のある室内環境を目指し、シンプルでメンテナンスのしやすい計画とします。
Q2 サービス性能	維持管理しやすいよう、階高を確保し天井裏のスペースを広く確保する計画とします。
Q3 室外環境(敷地内)	既存樹木を極力残し、緑を感じられる計画とします。
LR1 エネルギー	太陽光発電を採用し、自然エネルギーを取り入れた計画とします。
LR2 資源・マテリアル	鉄骨造とし、躯体・仕上・設備が明確に分かれる計画とします。内装仕上げ有害物質を含まない計画とします。
LR3 敷地外環境	既存樹木を極力残し、敷地外への騒音や視線に配慮した計画とします。
その他	焼き物の産地である常滑市に建つ建物として、部分的に常滑市産の焼き物タイルを採用し、地域の特色のある建物とするとともに地産地消にも配慮した。